



アフリカ工房
前田 真澄さん(33)

私たちが扱うのは、アフリカに自生する木「シア」の実から抽出した植物油脂「シアバター」です。途上国の産物を適正価格で輸入して支援する仕組み「フェアトレード」でガーナの生産者から直輸入しています。

手作りシアバター ガーナから直輸入

保湿力に優れ、アフリカでは大昔から肌荒れを防ぐクリームや、やけど、傷の治療薬として使われてきました。うちのシアバターは化学的な精製をしておらず、アフリカで手作りされたままの自然な色と香りが

特徴です。出合いは、青年海外協力隊員として派遣されたガーナ北西部のズオ村。村の生活向上のため現金収入源を探そうと、女性たちに得意なつづし、水を加えて時間を練り、煮詰めて冷ますなどの工程を経て

実際に使うと空気が乾燥したガーナで肌の調子が良くなる。そこで女性たちと一緒にシアバターのせっけんを作り、地元のホテルなどに置いてもらいました。けれども売れるのはわずか。生活向上の実現にはほど遠く「やりきれなかった」という悔いが残りま

現地の自然や文化を日本に伝えていきたい



シアバターが取り持つてくれた出会いを大切に、アフリカの自然や文化をもっと多くの日本の皆さんに伝えていきたいです。(聞き手・宮本隆彦)

と「だと気づかせてくれました。二〇〇八年夏に夫とガーナへ渡り、一から直輸入のルートをつくりました。旧知の村人に預けてきた携帯電話を通じて注文し、約三週間後に日本へ届く仕組みです。お客さんに届ける商品には私たちが見聞きしたアフリカを物語風につづったカードを添えます。最近ハリビーターが増え「アフリカとつながる幸せを感じられる」なんてうれしい感想を送ってくださる方も。

まえだ・ますみ 1976年、山形県鶴岡市生まれ。自由学園卒業後、アフリカ・ガーナの大学に留学。2001年12月から2年間、青年海外協力隊員としてガーナで活動。

結婚を機に夫の実家がある名古屋へ。08年1月「アフリカ工房」(名古屋市中川区)開設。同区在住。

よしおか・はるか(9歳) 豊橋市、母・吉岡佳代子
なります「って書いてあるよ。兄 おおこれで二十歳そつた(10歳) 犬山市、母より・げんた(3歳) 名に二歩近づいたなあ 川村みゆき

「福祉型社会実現を」 連合愛知、名古屋で 県中央メーデー

とともに戦ってきたし「大変厳しい選挙だ」立場に立つて頑張りまの身体拘束を法律でい「と協力を求めた。参」が、生活者や勤労者の「す」などと訴えた。「原則禁止」と明文化

きょう 黄砂愛知の 日本気象協 黄砂愛知の

郵便事業会の広報担当の月十一日付「信」についての電話が、は、こんな話橋市の長岡直家に郵便を配る人は、家のえるようにと「郵便で」掛付けてくれる紙を待ちわび遣いだ。「言かな気持ちにいつもありません」といらのメッセージ

「個人情報」範囲で、宅の町名だ、だきたいのう。「なぜ」聞きすると、の配達員をたいのですらさまさま